



市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケア分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、昨年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2000年度の助成対象となった各プロジェクト(下記参照)を中心に、7回連続でレポートする。

高齢者・障害者がショッピング、飲食、イベントなどを楽しめるデイサービス

特定非営利活動法人 自立支援センターファイフティ(青森県下田町)

青森県下田町にある大型ショッピングセンター(S.C)。レストラン、ファッションやアクセサリ、食料品、映画館、ボーリング場などのテナントが入る一角にデイセンター「でてこいセンターふおれすと」(熊谷啓子所長、自立支援センターファイフティ 常務理事)がある。明るい色調で統一された部屋外部との仕切りはガラス張り、および福祉施設とは思えない開放感が漂う中ではお年寄りたちがスタッフと楽しげに語り合い、時には笑い声さえ聞かれる。昨年6月から週1回、試験的にサービを実施してきたが、この5月1日から介護保険指定通所介護施設として本格的にオープンした。

定員は1日15人。現在、高齢者のほかに介護保険が適用されない若い障害者たちも利用している。「障害者であっても一般の人と同じような生き生きしたひとときを味わってほしい」と願う熊谷さんは、「ほかの施設でなかなか受け入れてくれない人たちにも来てほしい」と思いますが、複雑な介護制度の問題で赤字になってしまつて。でも、こういう人たちのためにこそ頑張りたい。利用者や午前中は健康チェックや体操などをし、午後は付き添いのスタッフらと買い物や散策をしたり、イベントなどを見て楽しむ。利用者自身が自分の体調や興味に合わせてサービを選択できるのがいい。



「誰でも映画も見たい、おしゃべりもしたいですね」と熊谷さん

段差もなく車いすでも楽に動けるバリアフリー設計の館内。デイサービスの利用者はエレベーターなどを利用して自由に楽しむことができる



	団体名および活動内容・主な活動地域
1	特定非営利活動法人 自立支援センターファイフティ ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 青森県下田町
2	社団法人やどかりの里 精神障害者の政策決定参画をめざした日加交流 埼玉県さいたま市
3	さいたま市精神障害者家族会「もくせい会」 コシスのための「ラウンジ南浦和」 埼玉県さいたま市
4	特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター チャイルドライン千葉「子ども電話」 千葉県
5	インフォシブ InfoSib (Information Service for Siblings) (Web site)
6	川崎水曜ハローの会 川崎ホームレス保健プロジェクト「冬を生きぬき、春を呼び込み」 神奈川県川崎市
7	特定非営利活動法人 リベラヒューマンサポート 中等教育を補う「コミュニテ・スクール」の実現 静岡県東部地区
8	外国人医療センター 在日外国人に対する医療支援事業 愛知県名古屋市
9	特定非営利活動法人 プレインヒューマニティー 不登校児童・生徒の支援にかかわるセミナー開催事業 阪神地域
10	西宮心の健康協会 西宮モデルによる地域メンタルケア推進プログラム 兵庫県西宮市
11	地域療育研究会 在宅障害児療育活動の地域ネットワークの構築 山口県宇部市
12	障害を持ちながらも自立と納得のいく社会参加をめざすふれあいセンター 精神障害者のための「つどい」事業の普及活動 沖縄県



お絵描きなどの創作活動で楽しいひとときを過ごす子どもたち

障害をもつ子どもたちの自立と発達を 支援する学童保育 地域療育研究会(山口県宇部市)

している方を見ていてもどこかいい意味での緊張感があつて、とくに女性の方はおしゃべりをしていらつしやる。デイスセンターであるけれどもそこに来る

という感覚だと思つたんですね。初めは嫌がっていた痴呆の人が帰るときには握手をしてくる変わり様を見て、とても感動しました」と熊谷さん。

今後は、障害者ももっと利用しやすくなるように、負担の軽減などを求めて関係機関に働きかけていきたい、という。

たもの。現在、このアート教室のほかに、中高生のために将来の自立を視野に入れたパソコン教室を実施している。さらに、こうしたクラブ活動をもっと地域に広げていくこと、「在宅障害児・者と家族を支援する会」を3月に結成団体も個人も含め、市内のいろいろな障害をもつ親の会とのネットワークづくりをすすめている。

毎週木曜日の午後、一人、二人と子どもたちがお母さんと一緒にやってきて、元気よく2階の部屋に上がって行く。そこは、山口県宇部市の「地域療育研究会」のメンバーが昨年から行っている障害児学童保育「おひさま放課後クラブ」の教室だ。住宅地にある小児科病院保育所を借りて運営している子どもたちはボランティアのお母さんたちとボール遊びやお絵描きなどをして過ごす。教室の壁のあちこちには落書きなどがあつて、自然で自由で、子どもたちが安心できる空間となつている。

「放課後クラブ」事務局長の水田和枝さんは「どうしても家に閉じこもりがちな障害児に、遊びや創作活動を通して楽しい人間関係を体験してもらおうとはじめたのがこのクラブです。実際に子どもたちがど



代表の村上さん(左)と事務局長の水田さん

ファイザープログラム
「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」
2001年度 募集要項

- 募集期間:2001年7月2日~8月13日
- 助成金:1件あたり300万円を上限とし、15件程度の助成を予定しています
- 助成の期間:2002年1月1日~12月31日(1年間)とします
- 対象となる分野:特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
- 問い合わせ先:
ファイザー製薬株式会社 企業文化室
03-3344-7524
応募要項はホームページ
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます

んなことに興味を持ってやれるか、どうしたら子どもたちが落ち着けるか、集団生活に馴染めるようにするにはどうすればいいかなどを考えながら、障害の状態に応じてやっています」と話す。活動の発端は障害児・者の自立と発達を支援するために4年前に設立された民間の研究・実践活動グループ。「放課後クラブ」は、アートセラピストを中心に、地域のボランティア、養護学校の先生方の協力を得ながら小学校に通う障害のある子どもたちを対象にし

結成から運営までを引っ張ってきた水田さんは「障害をもつお母さんが日常的に困っていることは、子どもが行くところがない、遊び仲間がいらないということがほとんどです。せめて週1回くらいどこか出かけていける場所をつくりましょうとはじめたクラブ活動ですが、親の会と手をつないでもっともっと活動の輪を広げながら、子どもはもちろん、親の生活や悩みなども支えあえるようにしていきたいと考えています」と強調する。